

「厚岸ウイスキー」の快挙



▲ニッカ余市蒸留所の樽に眠るウイスキー原酒

2016年に蒸留を開始した厚岸ウイスキーが今春、アメリカ最大の酒類品評会「サンフランシスコ・ワールド・スピリッツ・コン

ペティション(SFW SC)2021」で2年連続最優秀金賞に選ばれた。ジャパニーズ・シングルモルトウイスキー部門で、全審査員が金賞に選んだ製品だけが獲得できる「最優秀金賞」に輝いたのは「海外版サロルンカムイ(20年6月製)」と「寒露(20年10月製)」。ブレンドド・ウイスキー部門では「雨水(21年1月製)」が金賞に選ばれた。

ワイン樽やミズナラ樽などで熟成した原酒50〜80樽を混ぜて独特の香りや味を引き出したのが特徴だ。チーフブレンダーは「厚岸の気候と風土が高い評価のウイスキーを生み出した」と記者会見で話している。

こうしたウイスキーブームの火付け役となったのが、14年9月から翌年3月末まで放送されたNHKの連続テレビ小説『マッサン』だ。ニッカの創始者・竹鶴政孝の生涯を描いたドラマの反響は大きく、ニッカウイスキー余市蒸留所では原酒が不足する状況が続いている。製品も高価なものから売り切れる状態が続き、ワインと同じよう

に投資の対象にもなつて、中国資本を中心にインターネットでの高額買も進む。酒税法改正でジャパニーズウイスキーの厳格なルール作りが進み、日本産は世界的にも評価されている。そんな中で、18年に活動を始めたニッカ愛飲者の集まり「竹鶴日果倶楽部」がニッカウイスキーの親会社アサヒビールを巻き込んで、ニッカパークができる。北広島市に本格的なニッカ・バーを設立しようとする動きがある。「竹鶴日果倶楽部」は、

ここに注目!

道産ウイスキーに熱視線

道産のウイスキーに熱い視線が集まっている。厚岸蒸留所(厚岸町)のウイスキー人気を背景に利尻町やニセコ町で新しいウイスキー造りが始まり、既存の酒類メーカーも北海道にちなんだウイスキーの販売に力を入れている。また日

本のウイスキーの歴史をつくったニッカウイスキーは、北広島在住の熱烈なニッカファンの要望に応え、2023年に開業するポールパークに隣接してアンテナ・ショップならぬ「アンテナ・バー」を開設する検討を始めた。

竹鶴家が広島県竹原市の日本酒の造り酒屋にルーツがあることから、北広島市在住でニッカ製品収集家で知られる杉山貢さんを会長に発足。札幌圏に約30人の

会員がいる。竹鶴政孝とリタ夫人が眠る余市町美園の町営墓地を、政孝の命日の8月29日に訪れたり、札幌の市電を貸し切って「ニッカ・ツアー」を行うなど「ニッカ愛」を発信している。アサヒビールやニッ

カウキスキーを傘下に持つアサヒグループHDのトップに3月、岩見沢市出身で岩見沢東高出身の勝木敦志氏が就任したことを知った杉山さんが、勝木社長宛に手紙で「ポールパークへのニッカ・バー出店」を要請した。

るお手紙を頂戴しました、誠にありがとうございました。大変感激いたしました。北広島市にて世界一のポールパークが完成し、北海道の更なる発展につながることを、北海道で生まれ育った私としても大変楽しみにしております。

84年にニッカウイスキーに入社後、アサヒの資本傘下に入ったため2002年にアサヒビールHDに転籍。オーストラリアの子会社社長などを経て、ニッカ出身者として初めてHDのトップに立った。勝木氏は北海道新聞のインタビュに、コロナ禍の現在を「過去のしがらみや歴史、風景が意味を持たない時代」と答え、「ニッカ創業100周年である2034年には世界中にジャパニーズウイ



▲厚岸町の郊外にある厚岸蒸留所

北広「ニッカ」のメッカリ!?

杉山さんも岩見沢東高出身で「先輩」に当たるとあって、勝木社長との指示で9月上旬、アサヒビール北海道統

括本部の枝伸本部長らが杉山宅を訪問。次のような勝木社長の「親書」を手渡した。〈このたびは、心温ま

と印刷された文書の欄外には「今後とも何卒宜しくお願い申し上げます」と直筆の添え書きもあった。

勝木氏は、1960(昭和35)年生まれ、



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)